

## 感染症情報 11月12日～18日

府下小児科200医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1048例(堺市	51例)
②溶連菌感染症	466例(堺市	91例)
③咽頭結膜熱	126例(堺市	6例)
④手足口病	124例(堺市	5例)
⑤RSウイルス感染症	110例(堺市	9例)

府下インフルエンザ定点305医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 121例(堺市 23例)

が報告された。

感染症報告数は前週比2.6%増の2,208件であった。

報告の第1位は感染性胃腸炎で、以下溶連菌感染症、咽頭結膜熱、手足口病、RSウイルス感染症の順であった。

感染性胃腸炎は府下で前週比1%増、堺市で前週比38%増であった。溶連菌感染症が府下では前週より5%減であるが、堺市で前週69例→91例は32%増であった。当科の周囲でも多い。咽頭結膜熱は府下で前週と同数、堺市で8例→6例であった。手足口病が府下で前週より25%増、堺市では前週7例→今回5例であった。RSウイルス感染症は府下で前週より3%増、堺市で7例→9例であった。なお、報告第9位の伝染性紅斑(りんご病)が前年と比較して多く推移しているとの指摘があった。

インフルエンザは府下で前週182例→今回121例であった(34%減、定点当たりの報告数は0.4)。堺市では前週42例→今回23例と減少した(45%減、定点当たり0.8)。

麻疹の報告が1例あった。風疹が府下で前週15例→今回5例あった(堺市はなし)。